

＜現場最前線からの便り＞

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【富山森林管理署】

砺波森林事務所

森林官 金 敏博

砺波森林事務所は富山県西部に位置する南砺市に所在し、石川県白山市・岐阜県飛騨市及び白川村に隣接する国有林野約八、五〇〇鈔と官行造林地約二四五鈔を管理しています。

森林事務所では、森林のパトロールや境界の維持管理、森林整備事業の進捗状況確認、管内自治体との連絡調整、NPO団体等の森林ボランティアの支援、国有林野の貸付など幅広い業務を行っています。

これらの中から、現在行っている二つの業務について紹介します。一つ目は、森林整備における間伐作業です。

間伐とは、植栽木の成長に応じて樹木を伐採することにより、混み合った林内を整理する作業です。



事業実施者との打合せ(写真右筆者)

間伐を行うと太陽光が地表に届くようになり、幹や根が発達します。また、下層植生が増えることにより土壌を保全し、山地災害にも強くなります。さらに、樹木が健全に成長することで木材の価値も高まります。

間伐を行わずに放置すると、樹木はお互いの成長を阻害して形質不良になるため、間伐は大変重要な作業です。

このため、健全な森林の整備を目指して、事業実施者に対する監督・指導等を行っています。

二つ目は、地元NPO団体等との森林ボランティアの調整です。

水無国有林内には、ミズバショウ、リュウキンカ、バイケイソウ、カタクリ、ヤマトリカブト等が群生する湿原があり、ミズバショウは、六月中旬頃まで楽しむことができます。また、湿原の周囲には樹齢一〇〇年を超えるブナの天然林が広がっており、一帯が「水無湿性植物希少個体群保護林」に指定されています。

近年、イノシシやシカによる食害や踏み荒らし、エゾノギシギシなど外来種の侵入等により、ミズバショウやヤマトリカブト等の湿地性植物の減少が見られ、湿原の規模が縮小してきています。



食害防止用のワイヤーメッシュ敷設作業

湿原の貴重な植物を保護・管理するため、地元NPO団体との協働により、湿原内にワイヤーメッシュを敷設するなどの被害対策を実施しています。



ワイヤーメッシュ敷設後の状況

■未来の担い手へのメッセージ

森林事務所の仕事は、まさに森林整備・林業の現場最前線の仕事である一方、森林環境の保護・復元等にも取り組んでおり、日々、貴重な経験ができる職場であると実感しています。こうした仕事に興味のある方は、ぜひ一緒に山の仕事に取り組んでみませんか。